



いのちに本気でよりそう府政へ

暮らしの悲鳴に応える時

減らされた保健所 元に戻して強化を

保健所のひっ迫が大問題になったのに、知事は「広域化のメリットが生かされた」と統廃合を合理化。危機的な事態をまともにつかんでいないことも明らかにな

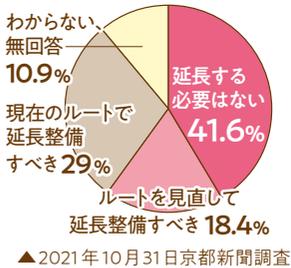
りました。あまりにも無責任です。いま、再び急速な感染拡大に直面しています。いのちを守る体制の立て直しこそ急務です。

京都府保健所	2003年以前 12 カ所	→	現在 7 カ所と 1 支所
京都市内	2003年以前 11 カ所	→	現在 1 カ所

こんなときに大型開発ですか？

2兆1千億円 北陸新幹線延伸

「反対」6割 もう中止しかない！



8割がトンネルで、残土処理や地下水への影響など、住民の不安は増すばかり。地元負担がどれだけ膨れ上がるかもわかりません。「国家プロジェクトだから」と、国に追随するだけの知事では困ります。疑問や不安に向きあい、きっぱり中止を求めるべきです。

北山エリア開発 植物園や大学を金儲けの場にするな



府民の憩いの場、落ち着いた文教地域に、1万人規模アリーナなど賑わい施設をつくる開発計画。反対署名が10万筆を超え、元植物園長をはじめ日本中から批判が寄せられています。ようやく開かれた住民説明会では、「これから検討」の一点張り。中身を隠して進めるやり方も許せません。いったん白紙に戻すべきです。

議会報告



京都市伏見区

日本共産党 府議3期

ばばこうへい

馬場 紘平

府民環境・厚生常任委員会、魅力ある地域づくりに関する特別委員会

ばばこうへい

ギグワーク(請負労働)、兼業、副業…それよりも 正規雇用増と最低賃金の引き上げを！

政府や財界は、ギグワークや兼業・副業をコロナ禍で推進しようとしています。しかし、不安定雇用や低賃金をそのままにすれば、結局、労働者にこれまで以上に過酷な長時間過密労働を押し付けることとなります。まともな生活できる最低賃金と、正規雇用が当たり前の社会の実現こそ必要です。正規雇用が大切と言いながら、「多様な働き方」路線から一歩も出ない府政の転換が必要です。



本会議で一般質問(12月8日)



地元・伏見区の商店街で「すべての商店街の底上げを」などの声をお聞きました。

地域振興の柱に商店街を

京都府には約300の商店街があります。しかし、京都市内の50ほどを除くと、そのほとんどが商店の減少などに苦しんでいます。コロナで、地域の買い物の場として、コミュニティの要としての商店街の役割が浮き彫りになりました。一部の元気な商店街への支援だけでなく、すべての商店街を全力で応援する支援こそ急がれます。

